



## 「スマート農業」の推進は農大から

岩手県立農業大学校同窓会

会長 笹田昭市

早春の候、同窓会員の皆様には、ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。

昨年の日本国は、平成の天皇陛下が御退位され、皇太子殿下が天皇陛下に即位し年号が「平成」から「令和」になった記念の年でした。

また、昨年は自然災害が猛威を振るった年でもあり、台風15号や19号等今までにない巨大台風が話題となりました。本県では、10月の台風19号で、沿岸部では三陸鉄道や水産関係施設に大きな被害を出し、内陸部ではりんごを中心に農作物にも被害が出ました。また、日本だけでなく、世界中で異常気象が注目された年でもありました。

現在、国の農業政策の柱として「スマート農業」が推進されています。その結果として、「自動運転トラクター」のテレビドラマが放映されたり、収穫物の積み下ろしなどで人の作業を助ける「アシストスーツ」が市販される等成果も出始めています。私

が学生だった昭和40年代には、耕運機からトラクターへ、手作業による田植えから田植機へ、手刈りからバインダー・コンバインへ、と日本農業の転換期でした。非農家出身だった私は、農業に関する職に就きたくて、農業短大の2年生時には農業機械を専攻し、卒業論文は自脱コンバインに関するものでした。あれから50年、今また農業は大きな転換期を迎えています。

現在推進されている「スマート農業」は、農業経営、生産流通、栽培管理まで総合的な農業革新を目指しています。農業大学校では、カリキュラムに必要な講義を取り入れたり、現場でも最新の施設を整備し、「スマート農業」を学生に教育できるように取り組んでいます。同窓会としても、できる限り学生への支援をしていきたいと思っております。

会員の皆さんも機会がありましたら是非農業大学校にお立ち寄りください。



## 同窓会報に寄せて

岩手県立農業大学校

校 長 高橋 則 光

同窓会員の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動の推進に多大なる御支援と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。本校は、昭和56年(1981年)に創立され、令和2年をもって40年を迎えます。40年の伝統と歴史を刻む本校から多くの方々が卒業され、農業界はもとより地域のリーダーとして活躍されております。

さて、今年度の学生の活躍を振り返ってみますと、愛知県で開催された第57回技能五輪全国大会のフラワー装飾職種において、本県代表として出場した花き経営科2年の学生が敢闘賞を、第30回ヤンマー学生懸賞作文の部で花き経営科2年の学生が銀賞を、東日本農業大学校等プロジェクト発表会で農産経営科2年の学生が優秀賞を、令和元年度県獣医畜産業績発表会で肉畜経営科2年の学生が奨励賞を受賞するなどの個人受賞に加え、各経営科の取組による受賞も数多くありました。

また、秋の農大祭では、令和のスタートに相応しく「新時代を切り開け！農大生の力で」のテーマのもと、学生実行委員会が企画・運営した農畜産物直売、学習紹介や多彩なステージイベントなどで、3,000人を超える来場者から好評をいただいております。学生にとって大きな励みになっています。

そして、今春卒業予定の40名の進路は2月末までに100%が確定し、自家就農や農業法人への雇用就農のほか、農業団体や農業関連企業への就職で26

名が地域農業の担い手やパートナーとして巣立つこととなりました。今年も多く多くの学生が地域に帰り、本校で習得した知識や技能を生かすことができる仕事に就き、地域活性化の担い手として歩んでくれることは、とても心強く感じる場所です。

今日の農業・農村は、従事者の高齢化・減少に加え、グローバル化や情報化が進展し、社会・経済環境の変化スピードが加速してきています。こうした急速かつ多様な変化への対応が求められる中で、農業に関する高度な知識と理論に裏付けられた実践力を発揮し、現場で改善や革新をリードしていくことのできる人材育成がますます重要になってきています。

こうしたことから、本校では、より良い農業のやり方を目指す「国際水準GAP」や、生産性向上を図る「スマート農業」に関する教育内容の充実を図っており、今年度は、トマト栽培で県版GAPの確認・登録、畜産学科で農場HACCP推進農場の指定を受けたほか、スマート農業に対応した農産乾燥調製施設等の完成など、教育環境の整備が進みました。

今後とも時代に即した教育・研修の充実強化に努めてまいりますので、同窓会の皆様の変わらぬ御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、同窓会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝を祈念申し上げ、挨拶といたします。



農産乾燥調製施設



農大祭（鹿踊り）

—新たな旅立ちにあたり—

## 今春卒業し、同窓生の仲間入りをする学生からの寄稿



流れゆく2年間の中で

農産経営科2年 菊池太雅

入学してからの2年間、恐ろしく早く感じました。思い出を振り返る度、「もう〇月かあ...」という会話を何度繰り返したか数え切れません。しかし、何気なく過ごした日々の中でも、どこかしらで成長していたことに気付いた時、この2年間はとて有意義に過ごせたなあと感じます。

卒業後、私は農業・食品産業技術総合研究機構に就職します。この2年間で養った知識を活かし、日本の農業の未来を明るく導いていきたいです。



大切な仲間との2年間

農産経営科2年 千葉航

私はこの学校に入学することができて心から良かったと思っています。

農産経営科では稲作に関することを実習しながら学ぶことができました。この2年間楽しいことや大変だったこと様々ありましたがクラスメイト達と一緒に乗り越えてくることができました。

卒業後は秋田県立大学に編入します。農業大学校で学んだことや仲間たちとの思い出を胸にこれから頑張っていきたいです。



卒業後の目標

野菜経営科2年 阿部太希

農業大学校での2年間はあっという間でしたが、実習や寮生活を通じて様々なことを経験することができました。

私は農業大学校を卒業後、一関市花泉町にある株式会社 KOIWA に就職し、なす栽培の経験と知識を深めます。将来は、地元である平泉町でなす栽培を始めたいと考えています。一関市・平泉町はなすの生産が盛んな地域なので、なす産地としての更なる発展に貢献していきたいと思っています。



農業で地域を笑顔に

野菜経営科2年 阿部凌馬

私は、JAいわて平泉に内定をいただきました。4月からどの部門に就くか決まっていますが、どこに所属しても社会人として地域に貢献したいと思います。

中学校からの夢だったJAに内定をもらい、さらに地域農業を活性化させるという新たな目標を立て、農業大学校で学んだことを地域の農家の皆さんに役立てていけるよう、日々切磋琢磨し、JAで経験を積み、地域の笑顔が増えるように頑張っていきたいと思っています。



教える側に

果樹経営科2年 高橋なぎさ

私は将来、母校で農学を教える教員として地域に貢献していく目標があります。岩手農大を卒業後は学びを深めるため、教員免許取得のために弘前大学に進学します。岩手県で過ごした2年間は、地元である青森県を俯瞰的にみる機会にもなりました。農業で繋がる学生の熱量には毎日励まされ、私が求めているものについて考えさせられた2年間でもありました。5、6年後、岩手農大にも私の後輩を輩出できるような先生になります。



純熟への2年間

果樹経営科2年 山田楓

私が農業大学校に入学し、もうすぐ2年の月日が経とうとしています。農業大学校では、農業の栽培知識や経営知識を学ぶ事が出来た上に、今まで農業に全く関わる事の無かった私を、様々な人と結んでくれました。入学して本当に良かったと感じています。

私は卒業後、さらに経営学を学ぶ為に大学へ編入します。農業大学校で得た物を忘れずに、これからも精進して参ります。



### 農大での経験を糧に

花き経営科 2年 菊池 遥香

私は花きについてたくさんの技術と知識を学びました。また、事例研究で現場の声を聴き、良い刺激を受けました。勉強だけでなくサークルの大会に出場したり、意見発表全国大会に行ったり、様々な場所で自分を成長させることができました。卒業後は東京の花き専門店で働きます。厳しい環境で生活することになりますが、メンタル面もレベルアップできるよう修行してきます。辛いことがあっても、ここで学んだこと、経験したことを糧に頑張ります。



### 思い出を胸に

花き経営科 2年 工藤 美月

私は、2年間農業大学校で花きの栽培や経営はもちろん、病害虫や土壌、農業気象など、様々な分野について学習しました。また、フラワー装飾技能証の取得に向けて、経営科の仲間と日々練習に励み、無事取得することができました。さらに海外研修でカリフォルニア農業や文化にも触れてきました。

私は、4月からJA新しいわての職員として働きます。農業大学校で学んだことを生かし、JA職員として岩手県の農業を支えていきたいと思っています。



### 酪農で地域を元気に

酪農経営科 2年 栗畑 翔

普通科の高校に通い実家の手伝いをしてきた私は、実家の経営方法しか知りませんでしたが、農大に入学して高品質な生乳生産の仕方、農業機械の操作法、栄養価の高い飼料作物の栽培法等の専門的な知識を得ることができました。また、全寮制だからこそ一緒に勉強できる仲間もできました。この関係は卒業後も絶対に続けたいです。卒業後は酪農ヘルパーと実家の仕事を両立し、地元葛巻町の酪農を更に活性化できる人間になりたいです。



### 目標に向かって

酪農経営科 2年 小谷野 菜々英

私は卒業したら県内の酪農法人に就職します。農業大学校では2年間という短い期間でしたが、実習や座学、事例研究を通して大好きな牛のことやそれらを取り巻くいろんな物事について学び、充実した時間を過ごすことができました。特に卒業研究では、以前から気になっていた「子牛の育成方法」の研究を実際に行うことができ、とても勉強になりました。卒業後は、農大で学んだ知識を活かして就職先でも頑張ろうと思っています。



### 我が故郷へ

肉畜経営科 2年 佐々木 瑞生

私の実家は、宮城県登米市で和牛繁殖と水稻との複合経営を営んでいます。私は和牛繁殖部門を引き継ぎ規模拡大と効率化を図ることを目標に農大に入学しました。農大での2年間で、新しい知識や技術等を習得するとともに多くの仲間達に出会うことができ、大きな財産を得ることが出来ました。卒業後は、農大で得た財産を活かし、実家の農業を発展させるとともに故郷の農業発展に貢献していきたいと思っています。



### 卒業後の目標

肉畜経営科 2年 古屋 敦凌

私は農業大学校卒業後、JAいわて花巻へ就職します。農業大学校での2年間は長いようで短くあっという間でした。学ぶことができた知識、技術、取得できた資格を活用し、自分の価値をさらに上げていけるよう日々努力を欠かさないようにしていきます。

就職後は実家の和牛繁殖経営を行いつつ、地域の農家との交流を密にして協力して地域の畜産の発展に貢献していきたいと思っています。

## ◆ 支部便り ◆

## 盛岡支部

## 力強い若き地域リーダー

盛岡支部長 笹田 昭市

私が勤務しているJA新しいわたの理事として活躍されている岩崎隆さんを紹介します。

岩崎さんは、昭和48年生まれの46歳です。平成5年度に農業経営科を卒業後、生物工学科に進学し、平成7年3月に卒業と同時に就農されました。

就農と同時に農村青年クラブに入会して活動され、平成12年～14年には会長を務められました。その後、平成21年からは盛岡市の農業委員、平成28年からはJA新しいわたの理事と、まさに地域のリーダーとして活躍されています。

岩崎さんの自宅は、盛岡市から国道282号線を北上し、ユートランド姫神に向かって右折した生出地区にあります。西に岩手山、東に姫神山を望む見晴らしのいい台地で、近くには毎分45tの湧水量を誇る「生出湧水」があります。

岩崎さんは、奥さんをご両親の4人で、水稻25ha、畑1.1ha、草地6ha、ビニールハウス11棟(135坪)、和牛繁殖8頭・合鴨500羽を飼育する複合経営をなされています。

水稻は、湧水を活かして合鴨500羽を放し飼いにす

る有機米として、関東や愛知県の米業者に販売しています。また「湧口米(わつくちまい)」として商標登録を行い、個人販売をしながら消費者との交流もされています。

ハウスではオクラ、畑ではニンニク・玉ねぎ・里芋等を栽培していますが、母屋の隣には農産加工所も設置され、収穫したものはそのまま売だけでなく加工品としても販売しています。生産物は、ユートランド姫神の直売所だけでなく、イオン玉山の「恵一握」、市中心部のクロステラス内「賢治の大地館」にも出荷しています。

岩崎家は、高校2年(盛岡農業高校生)の長男と4人の娘さんがいる大家族です。特に、長男の方は農業が好きで、休みの日には農作業を積極的に手伝ってくれるそうです。

ご本人の活躍はもちろんですが、将来が楽しみな岩崎家です。 岩崎隆さん▶



## 花巻支部

## 地域に密着した営農指導を目指して

花巻支部 藤原 勝栄

花巻支部から、JAいわて花巻で、日々業務にがんばっている佐藤秀和さんを紹介します。

佐藤さんは、農業大学校を平成13年3月に卒業、4月に同JAに就職、本店で園芸推進や農協青年部の育成事務局員、その後、3支店で営農指導や園芸センターでの業務を経験して、現在は湯口支店で営農指導員として働いています。

就職してからのモットーは、組合員の皆さんの意見を良く聞き、農大で学んだことを生かしつつ、新たな知識と経験を生かして前進につなげるとのこと。

湯口支店の管内にはJA中央カントリーエレベーターがあり、花巻産として評価を得ているお米の供給に因るため、栽培技術の徹底や収穫時期には、各地区組織に刈り取り時期や面積の配分調整をする事務局を担当しています。

近年、法人化や生産組合等の集落ぐるみ農業経営体が組織化して来ており、組織の中に、若い担い手の加入促進や収穫量の目標実現にも課題が多く解決を因るため、組織に所属する組合員や関係機関との連携を密にしながら地域で実践出来る低コスト安定多収穫の追求をしながら、持続可能な地域農業の実現を目指

したいとしています。

また、奥様は農大の同期生で野菜専攻をされ、同じJAの石鳥谷支店で園芸指導員として勤務されているとのこと、そして子供さんは高校生2人、小学生の3人で、小学校へ通う子供さんのPTA会長の要職を務めているとともに、消防団員として地域防災活動に取り組まれています。

今日の農業・農村のめまぐるしい変化の中にあって、現場に即応した対応力は、現在求められていることにマッチしており、取り組む姿勢を見ている者として、今後、職場や地域でのご活躍をしてくれるものと期待しております。

結びに、農業大学校におかれましては時代に即した農業の担い手を育成する教育機関として益々のご発展をご祈念申し上げます。

佐藤 秀和さん▶



## 二戸支部

## 様々な交流を通じて

二戸支部 田澤 太朋

平成26年3月に岩手県立農業大学の酪農経営科を卒業し、すぐに経営者として就農しました。就農後は、新規就農者として認定されました。家族経営で就農当初は、父と母、祖母の4人で仕事をしていましたが、今は祖母が引退して、3人で仕事をしています。経営規模は、経産牛32頭、未經産21頭、計53頭を飼育しています。自給飼料は牧草24ha、デントコーン5.5ha、ライ麦2.5haです。

就農した後、九戸村4Hクラブに加入しました。それに伴って、二戸と浄法寺、軽米、一戸、九戸の5つをまとめたカシオペア4Hクラブにも加入しました。カシオペア4Hクラブには自分と同じ農業大学を卒業した方々が多く加入されていたため、すぐに打ち解けることができました。それぞれ分野が違いますが、交流をすることで自分が見たことないことなど、新鮮なことを聞いたりできるのでとても楽しく参加することができています。

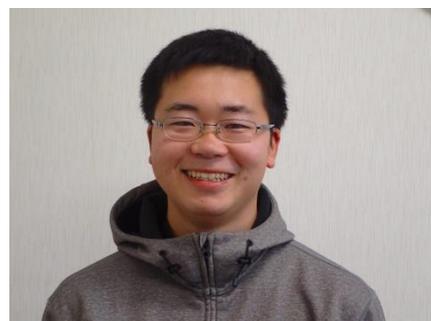
九戸村同志会にも就農した後加入しました。同志会では、九戸の先輩酪農家と一緒に毎年県内で行われる共進会という牛のコンクールに参加しています。共進会を通じて、各酪農家との交流の場として、いろん

な情報を聞いています。それらの情報で自分の家で出来るものを活用しています。今後は、ただ参加するのではなく上位入賞出来るように、出場する牛の管理を始め、牛舎全体の管理を一人でも出来るようにしていきたいです。

平成31年には、葛巻町のCow Boysや葛巻町のJA青年部に加入しました。そこでは葛巻の酪農家と交流をしています。年齢が近いことから、酪農家の友達が増えて横のつながりが広がりました。技術面や牛に関する情報などを聞いて今後の経営に生かしていきたいです。そして、交流を通じて親しい人を増やしていきたいです。

最後に今後の目標は、60頭の搾乳牛舎を建て、労力削減と作業の効率化を図れるようにしていきたいです。そして、九戸の農業を引っ張っていけるように頑張りたいです。

田澤太朋さん ▶



## 岩手県乳質改善特別賞を受賞！

令和2年2月19日に岩手県乳質改善協議会が「アートホテル盛岡」(盛岡市)で開催されました。その際、当校が岩手県乳質改善特別賞を受賞しました。この賞は、平成31年1月～令和元年12月に生乳生産技術の向上に努め、継続的に高品質な生乳生産を行っている優良農家のうち、特に乳成分が上位であったことから当校が特別に授与されたもので、県内の上位約4%以内に位置するものです。今回の受賞は、職員はもちろんのこと、学生の乳質に対する高い意識の表れと思っています。

今後とも「食の安全・安心」に努めてまいります。



## 全国農業大学校等プロジェクト発表会で優良賞に中川大地さん！

令和2年1月15日～16日に東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会を「みどりの郷」で当校が担当校として開催しました。審査の結果、当校から「プロジェクト発表の部」の優秀賞に中川大地さんが選ばれました。

さらに、東日本代表となった中川大地さんは、令和2年2月14日～16日に「国立オリンピック記念青少年センター」(東京都)で開催された全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会「プロジェクト発表の部」で優良賞(7位相当)入賞を果たしました。おめでとうございます！



## 「農場 HACCP 推進農場」に指定されました！

本校の畜産学科（酪農、肉畜経営科）は、農場 HACCP 方式による衛生管理に取り組んでいる農場であることが認められ、令和元年 12 月 27 日に農場 HACCP 推進農場（対象家畜：乳用牛・肉用牛）に指定されました。

本校では、学生が高度な農場管理手法や先進技術を身に付けられるよう、平成 30 年度から新たなカリキュラムとして GAP（農業生産工程管理）やスマート農業に関する教育に取り組んでおり、講義や実習を通して学生の理解も深まっています。

実際に認証を受けることを考えた時は、「給餌や搾乳などの飼養管理を学生が当番制で行っている本校では、農場 HACCP 認証は難しいのではないか」という声もありました。しかし、「学生・職員という複数の人数が生産に携わる現場だからこそ必要である」という考えのもと、研修会や牛舎整備等に丸となって取り組み、推進農場指定を受けることができました。

もちろん、今回の推進農場指定は農場 HACCP の入り口です。今後も、指導機関等の指導から、農場 HACCP 認証に向けた取り組みを進め、高度な技術と経営感覚を身につけた青年農業者の育成を進めていきます。



＜家畜保健衛生所による確認の様子＞

（注：農場 HACCP とは、畜産物の安全確保の観点から、農場における危害要因分析・必須管理点の考え方を取り入れた飼養衛生管理）

## 岩手農大で「岩手県版 GAP」確認登録！

本校では、県版 GAP の取組みが認められ、令和元年 12 月 26 日付で県版 GAP の確認登録となりました。

学生が先進的な技術と経営感覚を身につけることを目的に、昨年度から国際水準 GAP および ICT 等を活用したスマート農業技術に関する新たなカリキュラムを導入し、併せて複合環境温室や農産乾燥調製施設・農業機械の整備を進めてきました。

GAP 概論の授業では、外部講師を招いて GAP の意義などについて講義をおこない、徐々に学生の理解が進んでいます。

今後、水稻、トマト、りんごの作目で ASIAGAP の認証取得をめざしますが、今回は、これに先駆けて野菜経営科がトマトで、令和元年 11 月 26 日に農業改良普及センターの現地調査を受けて登録に至りました。

来年、専攻実習等の現場作業において GAP の実践が継続されるように、また、ASIAGAP の認証取得に向けて準備を進めていきます。



＜県版 GAP 現地調査＞

（注：GAP とは、農業において、食品衛生、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理）

## 技能五輪全国大会のフラワー装飾職種で「敢闘賞」を受賞！

令和元年11月15日～18日に愛知県で開催された第57回技能五輪全国大会のフラワー装飾職種で、本校花き経営科2年の黒田ひすみさんが「敢闘賞」を受賞しました。

この大会は、各都道府県の予選を勝ち抜いた23歳以下の青年技能者が一堂に会し、技能レベル日本一を競う大会です。

黒田さんは日々の厳しい練習で、ブーケやテーブルアレンジメント等の作成技術を習得し、全国の青年技能者と競った結果、その高い技術力が認められ、敢闘賞の受賞となりました。



## 令和元年度岩手県獣医畜産業績発表会で奨励賞に千葉大志さん！

令和2年1月30日に令和元年度岩手県獣医畜産業績発表会が岩手県水産会館（盛岡市）で開催され、本校からは「畜産部門」で肉畜経営科2年の一盃森慎吾さんと千葉大志さんが、卒業研究の成果を発表しました。練習の成果を生かした堂々とした発表でした。

審査の結果、奨励賞に千葉大志さんが選ばれました。おめでとうございます！

### ○発表演題

「リンゴジュース粕の飼料化の検討」 一盃森慎吾

「畜産共進会上位を目指して

～共進会出品マニュアルの作成～」 千葉大志



## 令和2年3月卒業予定者の進路状況について（令和2年2月末現在）

本年度の卒業生は、本科40名ですが、進路の内訳は自家就農6名、農業法人等10名、農業団体5名、農業関連企業4名、一般企業6名、研修1名、公務員等3名、進学4名、その他1名となっております。主な進路先は以下のとおりです。

区 分	進 路 先
就 農	盛岡市、一関市、遠野市、岩手町、葛巻町、宮城県登米市
農業法人等	(株)KOIWA、北日本JA畜産(株)藤沢牧場、(株)小形畜産、(株)アグリファイン、(株)重次郎、(株)奥中山高原牧場、(株)ビッグフィールド、(株)ジャパンアグリベンチャーユニット、奥州牧場
農業団体	JA新いわて、JAいわて花巻、JA岩手ふるさと、JAいわて平泉
農業関連企業	(株)佐藤政行種苗、(株)みちのくクボタ、ヤンマーアグリジャパン(株)、日本ニューホランド(株)
一般企業	(株)キタカミデリカ、(株)サンデー、(株)ユーアイ、(株)宮耕
研 修	(有)徳重和牛人工授精所(鹿児島県)
公務員等	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
進 学	弘前大学農業生命科学部、新潟大学農学部、秋田県立大学生物資源科学部